

今後の区立図書館のサービス・配置のあり方検討会検討内容について

昨年9月から開催している「今後の区立図書館のサービス・配置のあり方検討会」における検討内容を、下記のとおり報告する。

記

1 検討テーマ

- (1) 今後の図書館サービス展開の方向性
- (2) (1)を支える施設配置の条件
- (3) 地域開放型学校図書館の検証とあり方
- (4) 電子書籍の動向と導入条件

2 検討委員等

13名(別紙1「名簿」参照)

3 開催日時等

- 第1回 令和4年9月28日(水) みらいステップなかの10階教育センター研修室
- 第2回 令和4年10月26日(水) 中央図書館地下2階セミナールーム
- 第3回 令和4年11月16日(水) 中央図書館地下2階セミナールーム
- 第4回 令和4年12月9日(金) 区役所5階教育委員会室

4 意見のまとめ(別紙2「主な意見とまとめ」参照)

(1) 今後の図書館サービス展開の方向性

《図書館の施設・運営》

- 施設の明るさや様々な事業・機能の充実などにも配慮して、「行きたい」と思える、また誰でも利用できる施設づくりが大切ではないか。
- 図書館単体の整備もあるが、他施設・機能との複合的な整備により、より魅力的になるのではないか。
- 図書館には、子どもたちの居場所としての役割もあり、個人での学習だけでなく、複数人での学習・ミーティングができるよう配慮が必要ではないか。

《図書館のサービス》

ア 児童サービス

- 本の大切さを伝えることは図書館の役割である。
- 単独の事業等だけではなく、乳幼児から小学生・中学生へと継続的なアプローチの仕組みが必要である。
- 自習や仲間同士のミーティングができる場としての配慮や整備も必要である。
- マナーを守ることは前提だが、音や声に寛容でも良いのではないか。

イ 高齢者サービス

- 高齢者向けのコーナーもあると良い。大活字本やDVDを並べたり、新聞や雑誌を安心してゆっくり読めるという場は必要。

- 読書に親しむイベント、本の紹介、映像 DVD（映画、観光地の紹介）などにも配慮してもらおうと、高齢者の集会等で利用がしやすくなる。

ウ 障害者サービス

- 職員の対応や移動時の誘導等少しでも知識を持ってもらおうと、安心して図書館を使える。
- 対面朗読室、朗読ボランティア、デイジー図書や再生機の充実を図ってほしい。

エ その他（一般）サービス

- 蔵書や貸出などの図書館本来の役割をなおざりにせず、常に向上させていってほしい。
- 非来館者を視野に入れたサービス構築を意識するとともに、様々な利用者を誘うため、タッチポイントの増加に努めるべき。
- 図書館の存在もサービス内容も、利用者すら知らないという視点で、積極的かつ多様な情報発信を行う必要がある。
- 新しい情報技術などによる格差に配慮して、誰もが利用しやすいよう配慮してほしい。

《司書と図書館員》

- 司書の活動は図書館の中核であるが、利用者にはその動きが見え難い、中立性は大切だが、より個性的な発信も必要ではないか。
- 図書館員が積極的に利用者に声かけを行っていくことにより、より利用しやすくなるのではないか。
- 司書資格の有無ではなく、より深い知識やコミュニケーションスキルが大切なのではないか。

(2) (1) を支える施設配置の条件

《図書館の配置について》

- 面積あたりの図書館数は、23 区中位であるが、人口あたりの図書館数は、23 区下位となり、現在の図書館配置が多すぎるとは言えない。
- 東中野地域、上鷲宮地域など、図書館サービス不存地域もあり、隣接自治体の図書館等が利用されている。
- 不存地域への図書館設置が困難であれば、貸出・返却のポイントの運用も視野に入れるべきである。

(3) 地域開放型学校図書館の検証とあり方

- 身近に図書館があるという点、気軽に立ち寄れるという点では、小さい図書館も有効である。
- 小さい図書館であるゆえの機能の限定とともに、小学校内に設置する必要があるか疑問がある。

(4) 電子書籍の動向と導入条件

- 紙書籍と電子書籍のそれぞれの良さを活かし、いずれかの選択ではなく、利用ニーズを踏まえ複合的に整備していくことが望ましい。
- 導入・整備にあたっては、児童・生徒、高齢・障害のある方の利用を視野に進めていくことが必要である。
- 具体的な利用方法の支援は必須として、情報の取り扱い方など、格差が生じないことが大切である。

5 今後のスケジュール

令和5年2月	教育委員会協議（今後の図書館のあり方素案）
3月	子ども文教委員会報告（今後の図書館のあり方素案）
4月～5月	区民意見交換会（3回開催）
6月	教育委員会協議（今後の図書館のあり方案） 子ども文教委員会報告（今後の図書館のあり方案）
6月～7月	パブリック・コメント手続（今後の図書館のあり方案）
9月	教育委員会議決（今後の図書館のあり方）
10月	子ども文教委員会報告（今後の図書館のあり方）

今後の区立図書館のサービス・配置のあり方検討会委員名簿

(敬称略)

No.	氏名	団体等	備考
1	佐藤 清一郎	町会連合会	
2	藤井 美江子	民生児童委員	
3	松本 克二	友愛クラブ	
4	高橋 博行	福祉団体連合会	
5	佐崎 さゆり	児童館ボランティア	
6	奥村 満智子	区立図書館ボランティア	
7	松下 智子	子育てひろば	
8	田中 和喜	区立小学校PTA連合会	
9	鈴木 辰也	区立中学校PTA連合会	
10	注連澤 文	公募委員	
11	柴田 健剛	公募委員	
12	野口 武悟	専修大学文学部教授	コーディネーター
13	庭井 史絵	青山学院大学教育人間科学部准教授	コーディネーター

検討会での主な意見とまとめ

(1) 今後の図書館サービス展開の方向性

《図書館の施設・運営》

【まとめ】

- 施設の明るさや様々な事業・機能の充実などにも配慮して、「行きたい」と思える、また誰でも利用できる施設づくりが大切ではないか。
- 図書館単体の整備もあるが、他施設・機能との複合的な整備により、より魅力的になるのではないか。
- 図書館には、子どもたちの居場所としての役割もあり、個人での学習だけでなく、複数人での学習・ミーティングができるよう配慮が必要ではないか。

【主な意見】

- ◇ 図書館はまず場所としての魅力があると思う。この検討会に参加した理由としては、本が好きだから。子どもと一緒に本に関連した施設を回っている。民間の施設も充実してきているところもある。しかし、公共の図書館だから、民間とは違う誰でも使える居場所となりうるところが図書館の魅力だと思う。
- ◇ 中3と中1の子どもがいる。初めて図書館に行ったのは、上の子が2歳のとき。家にいるのがつらいとき、いつもは公園だが、公園は冬は寒いし、雨のときも使えない。図書館は子育て世代の居場所だと思う。週末に図書館に行くと、知らない子とも親しくなる。本を通してということもあるが、地域の親子の居場所として続いてほしい。
- ◇ 中野東図書館は電車賃をかけ、子どもとイベントに参加し、駅周辺でご飯を食べる、行ってみようと思える図書館だなと感じた。そういう生活に沿った使い方ができるとうれしい。
- ◇ 高齢者調査をやっているが、新型コロナウイルス感染症拡大の前から孤立は多い。内向的な人、体調の悪い人は出かけていかない。近場でスマホを教えてくれたり、日常生活で困ったときの相談できたり、みんなつながりを求めている。図書館は本を借りるところというのは固定観念、誰でも来られる図書館という視点では、包括的に関わるといえるのは図書館の大きな魅力だと感じる。
- ◇ 通いたくなる図書館とはと知人に聞いたところ「明るくて綺麗」、そして「カフェが欲しい」。カフェ目的で出かけ、ついでに図書館利用につながると良いと思う。
- ◇ 中野東図書館のようにお茶を飲める場があるといい。
- ◇ 中野区にも魅力的な図書館が欲しいと思う。
- ◇ 中野区の図書館はどこも暗く感じる。入り口が暗いとどうしても敬遠したくなる。まず入ってもらって、そこから始まるのではないか。
- ◇ 図書館の魅力は、蔵書の多さや利用者数が評価ポイントとなるが、複合施設における魅力もある。中野東図書館についても若い人は様々に活用している。
- ◇ スポーツ施設と図書館等、今までにない施設同士の連携をすることが効果的なものもあるかもしれない。いろいろなことを一体的に検討していくべきだ。
- ◇ 角川武蔵野ミュージアムに行ったが、ここは博物館、美術館、カフェなどが複合化している施設になっていて、中野東図書館などと目指しているコンセプトは一緒と感じた。
- ◇ 練馬区の貫井図書館は、西武池袋線中村橋駅に近く、区立の美術館が併設されており、仕事帰り、買い物中に予約資料を受け取るなど、便利に利用している。杉並区立下井草図書館は商店街の外れの住宅地にあり、緑も多く楽しく感じられる。
- ◇ 居場所としての図書館。複合施設で児童福祉の専門家がいる館がある。独りで図書館にいる子どもは孤立しがち、そこで児童福祉と図書館の接点。相談に行きやすさや問題把握のポイントになるのではないか。
- ◇ 多摩に図書館内で地域支援とコラボして、認知症相談を行っているところがある。誰でも気軽にいけることがその理由である。専門窓口だと躊躇するが、図書館ならふらっといける。関連本を近くに展示することも良い。

- ◇ 小学生が1人でも行きやすい環境を作ってほしい。図書館は静寂なイメージがあるが、BGMや館員の声かけなど、子どもだけでも行きやすい雰囲気づくりが大切だと思う。
- ◇ 中学生・高校生の居場所がなく、鷺宮児童館も今年はあるが、今後は不明である。鷺宮・西中野の統合新校にキッズ・プラザができるときいている。
- ◇ 中央図書館は閲覧席が十分ではないので、改修の際には、中学生・高校生等がミーティング等もでき、楽しいと思える場としてほしい。
- ◇ 中野東図書館の7階の子どもフロアは、備品も含め一体感があり、非常によくできていると感じている。
- ◇ 自分の子どもも、勉強しやすいということで、中野東図書館を使っており、このような施設を増やすとともに、使い勝手の向上も図ってほしい。
- ◇ 鷺宮図書館は、エレベーターの利用が前提で、かなり使い勝手が悪い。中野東図書館も7階～9階と聞き心配したが、小学生なども普通にエレベーターを使っており、心配するまでもなかった。今後も、設備やサービスを充実させ、子どもたちが行きたいと思う図書館にしてほしい。
- ◇ 中野東図書館は閲覧席が多い、児童館の閉館、U18の廃止等の中、中学生・高校生の居場所として図書館は有効であると考えている。この狭い場所にこれだけの施設をよく作ったなという感想。
- ◇ ギャラリーなど展示スペースがあることで図書館にも寄っていく。
- ◇ 図書館は一度建てたら長く使うもので、先の将来を予想して、サービスにあった形を作っていくという視点を持って、設計など行ってほしい。
- ◇ 中野区で新たに図書館を作るときには、バリアフリーの要素と未来型の誰でも使える複合的な図書館にしてほしい。既存の図書館にも同様に取り組んでほしい。
- ◇ この検討会のように、図書館を考える常設の会議体をつくってはどうか。

《図書館のサービス》

《児童サービス》

【まとめ】

- 本の大切さを伝えることは図書館の役割である。
- 単独の事業等だけではなく、乳幼児から小学生・中学生へと継続的なアプローチの仕組みが必要である。
- 自習や仲間同士のミーティングができる場としての配慮や整備も必要である。
- マナーを守ることは前提だが、音や声に寛容でも良いのではないか。

【主な意見】

- ◇ 本の大切さを伝えないといけない。本をめくる大切さ、読み聞かせなど耳でじかに声を聞くことも大切である。先週も令和小の子どもたちに読み聞かせしたが、子どもたちも真剣に興味深く聞いている。紙の本を大切にすることも図書館の大切な役割。そういったことを伝えることも公共図書館の役目だと思う。本を読んでもらう喜びを大切にしたい。
- ◇ 40年前から語りかけをやっている。最近では、お話会に親子で来る人が増えた。お父さんも、その本を読んだということで、親子の話題になり、本を読むということがある。子どもの頃に本や図書館に親しむと。大人になってから図書館に戻ってくる。
- ◇ 広報はどこ自治体も問題だと感じていることが多い。ブックスタート事業のおかげで、赤ちゃんとお母さんには情報が届いていることが多いが、それ以降、継続的に図書館とつながる機会が必要。保育園などを通しての情報提供をするべきではないか。
- ◇ 今後の図書館のカギは子どもの図書館利用なのだろうと思う。将来の図書館ユーザーになってくる。
- ◇ みなみの小学校の開校イベントで、PTAによるイベントの景品として学校図書館の本を「もう一冊借りられる」券を子ども達に渡した。途中で増刷となるほど人気があった。大人が思っている以上に本好きな子どもは多い。
- ◇ 地域開放型学校図書館については、子どもへの貸し出しが多いと感じた。新しい学校に設置するとしているが、お話会も増やしてほしい。そのためにはボランティアの育成ということもあるが、現実にはボランティアは皆知り合い状態となっており、ボランティアに依存しないことも必要。

- ◇ 新型コロナウイルス感染拡大の影響で来館者が減少している。おはなし会にしても、以前は満員だったのが、3組までなどと制限がかかる。コロナ以前は、おはなし会の際にも子どもとふれあいがあったが、今は全くなっており、非常に残念に思っている。
- ◇ 小さいうちから、ちょっと図書館に行く、親が本を借りるのについて行く、そういうことを通して図書館になじみ、その後、勉強の場として図書館を使う。そういうことも考えると、昔と違って、滞在型利用のできる図書館が望まれる。
- ◇ 貫井図書館や他の図書館は子どもの一時保育を行っていて、その間にお母さんが本を選んだりできる。そういったことは中野区でもできないか。
- ◇ 中央図書館は閲覧席が十分ではないので、改修の際には、中学生・高校生等がミーティング等もでき、楽しいと思える場としてほしい。
- ◇ カナダでは、図書館がホームワークセンターのような機能を持っている。大学生が小学生の宿題を手伝うなど図書館に関わる人を増やすことが有効だと思う。読書以外のタッチポイントも増やすと面白いのではと感じる。
- ◇ 中野東中学校と中野東図書館は併設施設であり、放課後、本の貸出では立ち寄れるが、閲覧席等の利用は帰宅後となっており、自宅が近隣にないと図書サービスの利用が困難になる。
- ◇ 小さい子どもが声を出すとたしなめられることは全国的な課題。
- ◇ 日曜日の午前中は、子どもたちが騒いでも良い時間帯としている図書館もある。
- ◇ 長野県の図書館では、静かにしたい人が「サイレントルーム」を利用するところもあり、フロアは気軽な利用がされている。
- ◇ 子どもたちにもっと聞くべきではないか。ハイティーン会議等で、どういう図書館が使いやすいかなど子どもたちにも意見をもらったらどうか。

《高齢者サービス》

【まとめ】

- 高齢者向けのコーナーもあると良い。大活字本や DVD を並べたり、新聞や雑誌を安心してゆっくり読めるという場は必要。
- 読書に親しむイベント、本の紹介、映像 DVD（映画、観光地の紹介）などにも配慮してもらおうと、高齢者の集会等で利用がしやすくなる。

【主な意見】

- ◇ 高齢者の読書は健康の点からも重要だが、目が悪くなり、小さい活字がつかなくなる。大活字本もあるが、高齢者の読書という点では、読みやすさということも大切である。
- ◇ 高齢者の催しで、人生 100 年時代というが、これからは人生 120 年時代だと参加者が最近よく言っている。人生への意欲を感じる。元気で長生きすることと読書を切り離したくないと思う。
- ◇ YA 向けのコーナーがあるのなら高齢者向けのコーナーがあってもいいのではと感じる。大活字本や DVD を並べたり、新聞や雑誌を安心してゆっくり読めるという場は必要だと感じる。
- ◇ 高齢者会館の利用者が先日中野東図書館に行って、びっくりしたし、楽しかった、ああいう図書館もあるんだねとという声を聞いた。引きつける魅力作り、高齢者のコーナーやイベント、高齢者向けの推薦図書やその作家の講演会など、高齢者の居場所となる図書館になってほしい。
- ◇ 読書に親しむイベント、本の紹介、映像 DVD（映画、観光地の紹介）などにも配慮してもらおうと、高齢者の集会等で利用がしやすくなる。
- ◇ 在宅配送サービスはあるとのことだが、高齢者施設に入所している人に本を届けるサービスがあるといい。
- ◇ 高齢者もスマホは持っているが、使用方法が分からないときに近くに携帯ショップがあっても、自分の機種とは違って聞けないといったことがある。図書館も本の専門家であるとともに、情報の専門家としていろいろな相談を聞いてもらえるとうれしい。
- ◇ スマホと高齢者、高齢者会館でまつりを開催し、そこに区の ICT サポーターが来て、いろいろ質問できたことがあった。電子書籍が進むと、図書館にいけば基礎から教えてもらえるという仕組みがあると良い。友愛クラブとしても、組織的に図書館の PR を進めたいので、情報や出張サービス等もお願いしたい。
- ◇ ICT サポーターと図書館員と一緒に講座等を行うことも望ましい。高齢者会館で Zoom 形式の

事業を行うとき、すべてを ICT サポーターが行ってくれた。

《障害者サービス》

【まとめ】

- 職員の対応や移動時の誘導等少しでも知識を持ってもらおうと、安心して図書館を使える。
- 対面朗読室、朗読ボランティア、デージー図書や再生機の充実を図ってほしい。

【主な意見】

- ◇ 視覚障害者が図書館を利用する際に気持ちが良いなと思うときは、職員の対応や移動時の誘導等少しでも知識を持って対応してもらおう場合である。機会をもらって中央図書館でそういうレクチャーをさせてもらったが、他館でも進めてほしい。
- ◇ 10年前に対面室朗読室にかよひ、2週間に1回読んでもらった。カウンターからの誘導などが自然な人がおり、「今日、その人がいたらいいな」などと感じた。誘導の仕方、イスへの座らせ方、障害属性は人により様々だが、最低限、誘導、優しい日本語などのスキルを持っていると図書館へ行きやすくなる。
- ◇ 視覚障害者はサピエ図書館を使う。自分自身、司書に頼んで本を探すと言うことが、頭から消えかかっていた。外出にハンデがあっても、家にこもらず図書館のような公共の場に出向き新しい刺激をもらうことは大切。団体に共有していきたい。
- ◇ 対面朗読室の充実も図ってほしい。1人でデージーを読んだりもあるが、朗読ボランティアの方に読んでもらうという時間があまり無い。朗読ボランティアを増やして欲しい。
- ◇ デージー図書は中央図書館にもあるが、いろいろな読書困難者の方にも勧めてほしい。読書困難者である高齢者などにデージーフォーマットの音訳図書を活用できないか。聞きやすく、好きなときに好きなだけ聴ける。デージー再生機も高価なので、図書館で導入して欲しい。
- ◇ 高知県の図書館は眼科の病院にデージー資料を置いているところもある。それが視覚障害の方々の図書館利用にも繋がった。

《その他（一般）サービス》

【まとめ】

- 蔵書や貸出等の図書館本来の役割をなおざりにせず、常に向上させて欲しい。
- 非来館者を視野に入れたサービス構築を意識するとともに、様々な利用者を誘うため、タッチポイントの増加に努めるべき。
- 図書館の存在もサービス内容も、利用者すら知らないという視点で、積極的かつ多様な情報発信を行う必要がある。
- 新情報技術などによる格差に配慮して、誰もが利用しやすいよう配慮してほしい。

【主な意見】

- ◇ 登録者が限定されており、現行利用者の使いやすさも大切だが、利用していない人に来てもらう図書館になる必要がある。
- ◇ サービスは図書館内だけでは無く、アウトリーチもあり、例えば高齢者への本の宅配、イベントの外部実施による周知の向上、電子書籍も図書館に「いかない」サービスの一つ。
- ◇ 非来館型サービスである音楽などの配信サービスはやった方がいいと思う。
- ◇ タッチポイントの多さが必要。思ってもみない活用の方法を発信していくべきだ。
- ◇ 図書館を利用しない人への認知方法の拡大としては、本を使わない図書館といった活用方法があるのではないかと。カフェや一時保育、小田原で行っているぬいぐるみの図書館お泊まりなど、そこから図書館の利用に繋げていく。図書館に来るといろいろな体験ができるというのを売りとするべきだと思う。
- ◇ 現代は情報ニーズがない人はいないと思う。図書館に行くと google の検索結果の先を調べられるといったようなレファレンスの有効性のアピールが必要ではないか。
- ◇ 図書館の利用方法を区報に掲載するのもいいのではないかと。
- ◇ 日常的に図書館を利用していないと図書館の場所が分からないと感じる。住宅地にあつたりすると分かりづらい。道路上に分かりやすい看板を設置するなどし、歩いていて目につくような工

夫が必要ではないか。

- ◇ イベントなどの広報活動を活発にしてほしい。
- ◇ 今まで子どもの本を自分のカードで借りていたが、今日初めて証明書が無くても、子どものカードができることを知った。
- ◇ 中野区にゆかりがある著名人も巻き込んだ発信ができると、より多くの人の関心が引けると思う。
- ◇ 一歩踏み込んだ「まち」の成り立ちなどの講演会は面白いと感じる。
- ◇ 新宿区立中央図書館 50 周年記念イベント「本がわたしの手に届くまで」に先日参加した。図書館の本をどのように選書をしているかがテーマで、作家、校閲者、印刷会社、書店、図書館、それぞれの話を聞き、閉架書庫の見学等もできた。中野区にも大人向けの図書館ツアーなどがあると参加したい。
- ◇ 大和町の地区まつりで、歴史好きの方々が古地図の配布や歴史の話をしており、大変興味深かった。杉並区でも同様の催しがあり、地図をもらってきた。ここに昔、川があった、暗渠になっていたなど想像することの楽しみがある。
- ◇ 大人であれば、歴史とフィールド、その土地の本といった3つがあると、没頭する。自分は今、中野学校について読んでいる。資料も多いので、どこから読むのか分からなくなる。そのようなイベントがあると参加したいと思う。中野区なら囲町など犬の歴史やその解説本がどこかにあると良い。
- ◇ 図書館のあり方でこれが正解というのではないと思うが、逆に何をやってもよい、いろいろなチャレンジを繰り返してほしいし、可能性を感じる。
- ◇ 南中野の7町会と児童館で、かっぱまつりというイベントを行っている。700名くらいの参加があり、その防災コーナーに起震車がきたが、南台図書館も参加して防災の本の展示を行うなどタイアップした。地域の図書館の魅力作りを団体などでも共有していきたい。
- ◇ SNSは若者向けで高齢者は疎い。それに図書館に興味が無い人は見ないので、どう届けていくか。図書館と高齢者を結びたいと考えている。
- ◇ 図書資料購入計経費は、残念の一言。
- ◇ 図書購入経費7000万円、14歳未満の貸出冊数が下から3番目などの実績を見た。貸出を増やすなど実績を残さないと予算は増えなかつたりすると思う。貸出・返却場所等についてもお金がかからない方法もある。
- ◇ 中野区の図書館は新刊本などが遅いので、隣接区との融通で満足度を上げられたらいいのではないか。
- ◇ 10年後はデジタル技術が当たり前になっていて、社会全体がデジタル空間となっていると思う。その中で人によってスキル差が生じることを踏まえ、スキルや欲しい情報にたどり着くためのアドバイスをする場となってほしい。
- ◇ 今後の図書館サービスについては2つの視点あると思う。まず、図書館としての機能、蔵書の冊数、期間延長等にこたえるなどの基本的な機能や場所としての魅力。図書館に行ったら、電子書籍を読めるなど、そこに行かないと受けられないといったようなサービス。時代の変化で両者は融合していくと思う。
- ◇ 場所が身近で、素敵で、新しいことは良いことだが、図書館として何ができるかを考えることも大切で、単なる自習室だけではなく、新しい情報技術に触れるなどもあり得る。箱物の視点では無く、どんな機能を地域で果たせるかという視点からの検討も必要だと考えている。
- ◇ 自動貸出機など導入され、機械を通して利用するのもいいが、戸惑うこともあるので、相談しやすいように人が居てほしいと思う。
- ◇ 南台図書館は古いが、特集コーナーも好きだし、そのコーナーが来館する動機にもなっている。司書さんの手作り感があり、今後は、司書さん自身や区民が自分の好きな本を紹介するコーナーに繋がるとうれしい。
- ◇ 個人的には読書会なども望ましいと思う。世代を超えて意見の共有ができるし、みんなが集まれ場所になれば良いと思う。
- ◇ 山口市などは、いろいろな街角に図書コーナーを設置し、内容も充実させている。
- ◇ 中野区内に大学は多くあると思うが、関わりが薄い大学との連携状況はどうか。
- ◇ 中野区は専門図書館が他自治体に比べて多い。例えば矯正図書館。誰でも利用できるがあまり

知られていないのが現状。区立図書館以外の図書拠点とのコラボは面白いし、区立には無い専門書がある。お互い連携していったらいいのではないか。

《司書と図書館員》

【まとめ】

- 司書の活動は図書館の中核であるが、利用者にその動きが見え難い、中立性は大切だが、より個性的な発信も必要ではないか。
- 図書館員が積極的に利用者に声かけを行っていくことにより、より利用しやすくなるのではないか。
- 司書資格の有無ではなく、より深い知識やコミュニケーションスキルが大切なのではないか。

【主な意見】

- ◇ 中央図書館にもレファレンス担当はいるが、直接の利用者以外には伝わらない。調べの達人に関する発信が必要。
- ◇ 司書の専門性、個性の拡充が必要ではないか。どういう本がその人のニーズに合っているのか、そのような提案をする人が図書館にいることの発信、また学校への出前など積極的に行ったらどうか。発信していき、接触点を増やすことが大切。池袋の書店で、本のタイトルを消してポップで選ばせるブックカフェ、個人の感性を優先することでの集客方法もあると聞く。
- ◇ 学芸員は表に出てくるが司書は表に出ないといった傾向を感じる。直接司書から説明を受けられるといったイベントもいいと思う。
- ◇ 司書が選んだ本を読むイベントとして、福袋というものがある。子育ても終わり、自分でも読書の時間がとれるが、さて何を読むかというときに、新聞の書評等から探すことも良いが、司書が選んだ本を読めることは良い。どういう目的で選んだのかなど、司書の個性が出てくる。
- ◇ 図書館員は個性を表に出さない。司書も表に出ないように感じる。それと対照的なのが学芸員。学芸員は専門性を表に出している。講座の話も出たが、外部講師を呼ぶ講座だけでなく、図書館員が行う講演会も面白いと思う。もっと司書の個性を表に出してもよいのではないか
- ◇ AI が普及したら司書はいらないという意見がある。電子書籍なので司書の介在は 必要ないという意見もあるが、単純な窓口サービスを越えたところに、これからの図書館サービスがある。時代とともに司書の役割は変わってくる。
- ◇ 中学生くらいの年代が図書館司書を魅力的だと思わないと、優秀な司書は増えていかない。その意味で、図書館で働きたいという人を増やす取り組みが大切である。
- ◇ 本を探してほしいと思っても、忙しそうで声かけをためらってしまう。相談カウンターや案内係などがいると声をかけやすい。
- ◇ 家族に頼まれて図書館に行くが、目的の本を探すときに自分はすぐ人に聞くが、娘は検索機で探して、見つからなかったときにそのまま帰ってしまう。一緒に探してくれる雰囲気欲しい、特に子どもにとって、話しかけるということはとても難しい。
- ◇ カウンターにいるというのではなく、フロアにいて、図書館員から声をかける工夫をしてほしい。カウンターで聞くことは、結構ハードルが高い。中野東図書館では行っているようだが、他でも実施してほしい。
- ◇ 図書館の司書率の維持には二つの側面がある。司書資格が必要な業務とコミュニケーション能力が不可欠な業務である。必ずしも適格者が有資格者と言うことではない。
- ◇ 図書館を利用する場合に、司書資格の有無を気にして利用はしない。むしろ、胸に歴史好きとか書いてある方が、質問しやすかったりする。司書資格にこだわる必要は内容に思う。
- ◇ 書店の店員はよく勉強している。店員が選ぶベストテン、素晴らしい人がいる。資格より努力で役立っている人も多い。
- ◇ 館長がふさわしい人を選べば良いと思う。採用後、資格取得のサポートをすればよい。
- ◇ 先日、司書の話をする講座があった、苦労話を聞いて、親しみが持てた。また訪問したときは、その人に話しかけたいなと感じた。イベントなどで司書と話す場面をもっと増やすのもいいと思う。
- ◇ 図書館員について言えば、お話会に1名付くが、どんどん上手くなっていると感じる。何事も

挑戦していくことが大事と感じる。

(2) (1)を支える施設配置の条件

【まとめ】

- 面積あたりの図書館数は、23区中位であるが、人口あたりの図書館数は、23区下位となり、現在の図書館配置が多すぎるとは言えない。
- 東中野地域、上鷺宮地域など、図書館サービス不存地域もあり、隣接自治体の図書館等が利用されている。
- 不存地域への図書館設置が困難であれば、貸出・返却のポイントの運用も視野に入れるべきである。

【主な意見】

- ◇ 図書の受け渡しのポイントは多くていいし、郵便局やコンビニでの受取等、それくらい身近なところで借りられたらいいと思う。
- ◇ 中学校区に一つの図書館・図書ポイントがあると良いと思う。区民活動センターや中野区新庁舎なども活用できないか。
- ◇ 駅に貸出・返却のポイントを設置してほしい。
- ◇ 区民活動センターでの貸出・返却は若い人に利用してもらえる。だが、区民活動センターが帰り道に無いこともあるので、駅に予約本受取ボックスのようなものあれば、本を借りやすくなると思う。
- ◇ 15もある区民活動センターで図書の貸し借りができないか。
- ◇ 返すのが面倒だと感じる。区民活動センターに返却ポストが欲しい。
- ◇ 各区民活動センターを貸出・返却のポイントとすることは、有効だと思う。
- ◇ 東中野エリアは本町図書館、東中野図書館が閉館され空白地となっており、上鷺宮や中野駅西側も同様である。
- ◇ 空白地域の東中野近辺に住んでいる人は中央図書館まで仕方なく行っている。サービスポイントは多く設置した方がいいと思う。
- ◇ 上鷺宮地域は、ずっと図書館がなく、練馬区の貫井図書館、杉並区の下井草図書館を利用している。両図書館とも使い勝手がよく、多くの人が利用しているので、本を読みたい人は地域にたくさんいると考えている。
- ◇ 上鷺宮地域センターには図書スペースがあり、年間5万円の経費で運営されている。予約制度はないが、本の回転率が高く、有益なものとなっている。
- ◇ 鷺宮図書館は、薄暗く、閲覧席も少なく、本の回転も速くない。そのため、練馬区の貫井図書館に行ってしまう。何か対策を考えてほしい。
- ◇ 資料最後の半径1キロの図から見ると、鷺宮地区は図書館があることになるが、現状をみるとそう言ってよいのか。他と同質のサービスを受けているとは言えない。
- ◇ 図書館配置については、面積比で10位、人口比で17位とのことだが、順位の上昇のために学校内に分室を作るというのは本末転倒だと思う。
- ◇ 半径1キロのところに中野区が図書館を設けるべきなのか。近隣区と連携協定を結ぶことで多くの区民が使える。全区で共通の図書カードもいいと思う。
- ◇ 近隣区等ふかん的に見て施設配置を考えるのは重要な視点だと思う。自治体間を超えて考えていく、それくらい柔軟な施設配置は有効だと思う。

(3) 地域開放型学校図書館の検証とあり方

【まとめ】

- 身近に図書館があるという点、気軽に立ち寄れるという点では、小さい図書館も有効である。
- 小さい図書館であるゆえの機能の限定とともに、小学校内に設置する必要があるか疑問がある。

【主な意見】

- ◇ 美鳩ライブラリーについては、近くにできたことにより返却が楽になり、借りやすくなったな

どの声もあり、地域の人の流れが変わったという印象で、非常に有益な施設だと感じている。地域に住んでいても普段は学校に行くことはあまり無いが、地域の交流の場にもなっている。

- ◇ 「ライブラリー」という身近に貸し出しを受けられる場所があるのはありがたい。
- ◇ 地域開放型学校図書館については、子どもが乳児の頃にみなみのライブラリーを使用したのが、通常の図書館より利用のハードルが低いと感じた。買い物後や砂場遊びの帰りに立ち寄り、本を借りなくとも、そこで本を読むなどの利用ができる。通常の図書館に比べて低コストなのであれば、いろいろなところに居場所があるのは良いことだと思う。
- ◇ みなみのライブラリーができてとてもうれしかった。近くにある図書館として役立っており、いつまでも存在してほしい。利用者が少ないようで残念だ。
- ◇ 地域開放型学校図書館については、学校と複合化することは別としてアクセスポイント増加という面では有効。
- ◇ 放課後に学校図書館は閑散としているが、キッズプラザは勉強する場所もない状態であり、地域開放型学校図書館に小学生タイムなどを考えたかどうか。
- ◇ ライブラリーの使い勝手の悪さを改善してほしい、放課後に宿題をしたくても、他に人がいると使えない。放課後を小学生の時間にするなど工夫が欲しい。
- ◇ 自分の娘は、読書が嫌いだが、みなみのライブラリーへ勉強にいったところ、いっぱい利用できなかった。館ごとの特性に応じて運用を行ってほしい。例えばライブラリーは小学校にあるので、小学生優先であってほしいと思う。
- ◇ 地域開放型学校図書館については、蔵書が少ない。資料を見ると乳幼児が利用しやすいのは感じられる。
- ◇ 地域開放型学校図書館については、学校からから見ると、学校の敷地が削られるということ、教室を増やしたいのということになる。学校にもメリットが必要。小学校に設置するメリットは何か。学校図書館の貸し出しは3冊までで、読書家の子どもには、それ以上を分室で借りられるメリットはあるが、他には何かあるかを感じる。
- ◇ 地域開放型学校図書館は、小学校全校に整備することとなっている。中野の小学校は土地も狭いし、文科省の基準でも教室はより大きくする必要がある。桃園第二小学校などはそのための敷地がないので、区民活動センター内にでも作れば良い。区内一律ではなく、地域ごとの実状や要望によったらどうか。
- ◇ 統合新校に設置することで、もしかすると学校図書館は小さくなっているのかもしれないし、他のスペースも小さくなっているのかもしれない。地域の人にとって、設置したことが本当に良かったとならないといけないと思う。
- ◇ 財政的な余裕と土地の余裕があれば、電子書籍も地域開放型学校図書館も進めていけば良い。
- ◇ メリット云々もあるが、文科省の考えには、学校と社会教育施設の合築などということもあり、社会教育施設の側から見ると、地域開放型学校図書館も一つの選択肢ではある。
- ◇ 地域開放型学校図書館については、子どもへの貸し出しが多いと感じた。新しい学校に設置するとしているが、お話会も増やしてほしい。そのためにはボランティアの育成ということもあるが、現実にはボランティアは皆知り合い状態となっており、ボランティアに依存しないことも必要。
- ◇ 地域開放型学校図書館についてはあまりイメージできていないが、どういうサービスを受けられるのか。視覚障害者なら誘導チャイムの有無、車椅子なら平坦なのか、トイレはどのようになっているのか。

(4) 電子書籍の動向と導入条件

【まとめ】

- 紙書籍と電子書籍のそれぞれの良さを活かし、いずれかの選択ではなく、利用二一ズを踏まえ複合的に整備していくことが望ましい。
- 導入・整備にあたっては、児童・生徒、高齢・障害のある方の利用を視野に進めていくことが必要である。
- 具体的な利用方法の支援は必須として、情報の取り扱い方など、格差が生じないことが大切である。

【主な意見】

- ◇ 障害者の視点で見るとメリットが多いので、積極的に導入してほしい。また、区として独自のポリシーを持つことも魅力的だと思う。紙や電子を選べる方がいいと思う。
- ◇ デイジー図書や電子書籍が活発化している。読書バリアフリー法への対応、この検討会の目的でもあり、課題でもある。
- ◇ 電子書籍のもう一つのメリットは、文字の拡大ができたり音声読み上げができることで、様々なニーズに対応でき、高齢者や障害者のメリットは大きい。
- ◇ デジタル化している社会で電子書籍は避けて通れない。コンテンツが少ないとのことだが、現状出ているもののジャンルの把握をしてほしい。高齢者については、スマホを使って、事業に参加することなどもある。
- ◇ 電子書籍が広まることは、読書の手段が多様化するという点で望ましい。視覚障害者だけではなく、高齢者にとっても紙の書籍の活字はつらいものがあると聞く。中野区報なども読めないという声もあり、音訳と電子書籍には今後とも期待している。
- ◇ 一人一台パソコンの端末がある状態なので、公共図書館に電子書籍のサービスがあれば、児童・生徒の端末から利用できる。一般利用の他に、学校教育等と関連して考えていくことが必要。
- ◇ 学校の朝読書では、既に紙の本の子どもと電子の本の子どもが一緒だったりする。
- ◇ 子どもという視点で見ると、児童・生徒の端末の有効化という点では、公共図書館からのアプローチも不可欠である。例えば、図書館にあるデジタルアーカイブなども、存在を知らないから学校が利用しない場合もあるので発信していくことも大事。
- ◇ 小中学生へのアンケートで、紙の方が読みやすい 43%、電子の方が読みやすい 34%とあり、選択できるようにすることが大切。
- ◇ 選択肢を増やすことは大切。紙の本が読みづらい子どもも 3%程度おり、電子書籍が使えることは朗報。ディスレクシア症候群といった紙だと読めない子どももいる。
- ◇ 何も読まないより、電子書籍で読む方が良いようにも思える。それでも読書力はつき、その次に何を読むのかということになる。
- ◇ 電子書籍を公共図書館で取り扱うメリットは、返却の必要がないことがある。また、資格勉強のための本は書き込みの問題などがあり、紙書籍の対応が困難であるが、電子書籍ではこの問題はない。このように、「紙か電子か」ではなく、紙だと提供しづらいものを電子で提供する。ジャンルごとの特質に着目して提供することが現実的である。
- ◇ 電子のみのサービス体系ではなく、両者の良さを活用することが大切。また、認知度の向上、利用方法の周知等は不可欠で、人の集まる場所で利用体験会を実施することも考えられる。
- ◇ 多文化サービスの視点は入れてほしい、紙で多言語は難しい、電子書籍の多言語読み上げコンテンツなどの活用を。
- ◇ 現状では、出版物の 25%が電子書籍であり、とりわけ雑誌は電子側にシフトしている。
- ◇ 単に電子書籍を導入しただけでは貸出冊数は増加しない。電子書籍は、現在図書館を利用していない人を呼び込むサービスでもある。電子に第 1 巻があり、図書館に次巻以降がある、ビジネスマンが夜中にアクセスして使うことも考えられる。
- ◇ 長野県では、県単位で電子書籍が整備されており、各市町村も経費負担をしている。小さい自治体においては、自前整備より負担が軽減されるメリットがあるが、そのサービスから撤退した自治体では、当該サービスは受けられない。
- ◇ 電子書籍については、中野区の中途半端な予算では、結局中途半端。長野県では、システム整備は県、コンテンツは市町村。東京都でもそういう形はできないか。東京都にももっと力を入れてほしい。
- ◇ デジタルに関しては人によってレベルが違う。現在電子書籍がどうなっているのか知りたいといったニーズもあるかなと感じた。先日電子書籍に関するイベントに参加したが、課題については、本検討会でも出ていて自分の考えていたことが一緒だと感じた。周りの図書館がどうしているかなど、課題を把握してほしい。前回都道府県単位での導入例が紹介されたが、単独の自治体で導入するより広域の都道府県単位での導入がいいのかなと思う。デバイスの使い方等から始めた方がいいと思う。
- ◇ 電子書籍の導入は避けられないので、早期導入が望ましい。個人的には紙書籍は良いと思うが、

忙しくて図書館に行けない、ちょっと読みたいときなど電子書籍は便利だと思う。自分の使ってきた絵本ナビなども試し読みができるが、最近は1回なら全部読めるというサービスもある。

- ◇ 電車ではスマホで読書、家ではのんびりと紙の読書などの使い分けもある。
- ◇ 中野区独自ではなく、東京都に申し入れをするなどしたらどうか。朝読書にしても、文科省に一括ダウンロードサイトなどを作った方が便利。
- ◇ 電子書籍のコンテンツが少ないということならば、自治体ごとに得意なジャンルをつくるなども考えられないか。
- ◇ 電子書籍の規模が1万冊程度であれば、単独で整備するより複数区で整備するのがいいのではないか。大学図書館と連携し。区民に見られるかたちが魅力的じゃないか。デジタルアーカイブなどで美術館などの資料を図書館で見られることもいい。
- ◇ 現状では電子書籍は価格面も含め様々課題があるが、公立図書館は相互に連携し、新たなモデルを作ってほしいとも思う。本の汚損トラブルが無くなる等、少なからずメリットはあると考えている。
- ◇ 電子書籍は図書館の蔵書にならないということだが、やはり図書館の誇るべきは蔵書数ではないか、どれだけ特色のある本を持っているかが重要。
- ◇ 性急に進める必要があるのか。必要なら他自治体のサービスを利用するという考えもある。財源的なことも踏まえ、全部実施より、選択集中が必要。
- ◇ アマゾンで買う人と使わない人の格差が広がる中、図書館が学べる場となること が大切である。ガイド役が図書館という感じか。
- ◇ 電子書籍を導入したら、各館に説明係を置いてほしい。
- ◇ サービスは図書館内だけではなく、アウトリーチもあり、例えば高齢者への本の宅配、イベントの外部実施による周知の向上、電子書籍も図書館に「いかない」サービスの一つ。
- ◇ 財政的な余裕と土地の余裕があれば、電子書籍も地域開放型学校図書館も進めていけば良い。
- ◇ 電子化のネックの一つに経費の問題がある。立川市では民間企業の寄付ということがあり、1社 200 万円で 3 社が参加していると聞いた。自治体の財源が基本となるがそのような形態もある。また、公共図書館で導入し、学校が利用する場合の経費の負担はどうするかなど、各自治体でも手探り状態である。
- ◇ 電子書籍については、区民のつながりや居場所などとならないともったいない。
- ◇ 電子図書館に、電子書籍サービス、デジタルアーカイブサービスが含まれており、デジタルアーカイブ（紙を電子化）＝電子書籍ではない。
- ◇ 電子書籍は、図書館が書籍のベンダーと契約しており、利用者はベンダーのサイトにアクセスしそこで借りる仕組みである。書籍には再販価格制度があるが、電子書籍は対象外であり、図書館で利用する場合には高額となる。利用形態は、買い切り、期限・回数による利用などがあるが、基本的に図書館で所蔵するというのではない。また、電子書籍とするかどうかは作家の判断もあり、人気作品が必ず配信されるわけではない。
- ◇ 電子書籍の導入のためには、情報の把握、業者対応等のできる専任の職員を置いて対応すべきだと思う、方針や導入時期等を明確にして進めていかないと、後手を踏んでしまうし、行政サービスのデジタル化も遅れているイメージとなる。判断や目利き、業者対応もする職員を置いて検討すべき。